

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名≪算数(算数)≫

※詳細については、資料Ⅱ(算数-7～算数-12)を参照

発行者の略称	東書	書名	新しい算数
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、知識や技能の定着の度合いを継続的に確認できるように、各単元末に「たしかめよう」が設定されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、「今日の深い学び」や「算数マイノートを学習に生かそう」が設定され、課題解決の過程や説明の仕方等が掲載されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、学習の振り返りとして、学習の価値付けや、次の学びに向かうような発言をする児童のイラストが随所に掲載されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、第2学年以降の巻頭「学びのとびら」や、「今日の深い学び」では、他者の考えのよいところを認めるような場面が掲載されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、国際化の観点から、第5学年の「算数で読みとこう」では、日本を訪れる外国人の人数のデータが題材として設定されている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、第6学年の「データの調べ方」では、学習のしあげとして、データを整理して、自分たちの生活を見直す例が掲載されている。 		
3 内容と構成	<p>≪教科・種目共通部分≫</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、第2学年以降の「今日の深い学び」では、主体的に問題を捉え、対話を通して課題解決が図られるような活動例が設定されている。 □ 他教科との関連として、第4学年の「大きい数の区切り」では、英語での大きい数の表し方や大きい数のコンマの区切り方を学習する題材等が設定されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、第2学年以降の「今日の深い学び」では、キャラクターになったつもりで、数・図・式を用いて考え方などを説明する場面が設定されている。 □ 伝統や文化に関して、第2学年では、体を使った長さの単位「あた・ひろ・つか」を用いて、昔のものの長さの調べ方が掲載されている。 □ 体験活動として、第1学年の「かたちあそび」では、具体物を用いたかたち作りを通して、算数を見だし、気付いたことを考えさせる場面が設定されている。 □ 学校間の円滑な接続に関して、第1学年では、小学校での学習に慣れるためのサポートとなる別冊が設けられ、遊びの中で得た経験による学習が設定されている。 □ プログラミング教育の一環として、第6学年の「数の並べかえ方」では、プログラミングの体験ができる「プログラミングを体験しよう！」が設定されている。 □ 第2学年以降の「たしかめよう」では、問題解決の仕方が想起できる手引きが掲載され、以前学習したページに戻って学習を見直すことができるよう構成されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「おぼえているかな？」が設けられ、既習内容を復習するための問題や次の単元に関連した既習事項を確認することができる問題が設定されている。 <p>≪各教科・種目独自の観点≫</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 知識及び技能の定着を図るために、第2学年以降の「今日の深い学び」では、数学的活動を通じた学習ができる「学習を深めよう」「使ってみよう」などが設定されている。 □ 第3学年以降では、数直線、表などで多様な考えを表現し、その考えをもとに対話を通じた課題解決が図られるよう「考える力をのばそう」が設定されている。 □ 統計的な内容の充実として、日常生活の問題をデータから読み取り、特徴を理解し、解決を図るよう、第4学年以降に「算数で読み解こう」が設定されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 補充や発展問題として、単元末に「たしかめよう」が設けられている。また、巻末には、「ほじゅうのもんだい」と「おもしろもんだいにチャレンジ」が設定されている。 □ 判型は、B5判(第1学年はA4判とB5判)で、第1学年は①、②の分冊、第2～5学年は、上下巻の分冊である。第6学年は、合冊である。 □ 「視認性をいっそう高めた新開発のユニバーサルデザイン教科書体を使用しています。」と記載されている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《算数(算数)》

※詳細については、資料Ⅱ(算数-7～算数-12)を参照

発行者の略称	大日本	書名	たのしい算数
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、第2学年以降の巻末に前学年までの既習事項をまとめた「〇年までのまとめ」や補充問題「プラス・ワン」が設定されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、習得した見方・考え方をメモする「ひらめきアイテム集」が設けられ、その後の学習に活用できるよう構成されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、単元の導入では、学校行事や遊びなど、日常生活場面から児童自身が課題や疑問を見出す題材が掲載されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、巻頭の「算数まなびナビ」などで他の児童の考えの良いところを見つける学習方法が取り上げられ、多様性を認め合う場面が掲載されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、国際化の観点から、外国にルーツをもつキャラクターと一緒に学習する仲間として設定されている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、第3学年以降では、気象予報士や建築家など、算数を生かした仕事に就いた人々を紹介するコーナーが設けられている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、問題解決学習の流れをイラストを用いて示した「算数まなびナビ」や「じっくり深く学び合おう！」が設けられている。 □ 他教科との関連として、棒グラフや折れ線グラフ等の指導時期を早め、理科や社会に対応できるよう構成されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、第2学年以降の「算数まなびナビ」では、話し合いながら学ぶための話し方、聞き方等が解説されている。 □ 伝統や文化に関して、第6学年では、メートル法以外の単位として尺貫法の「尺」「間」「坪」などが取り上げられている。 □ 体験活動として、第2学年の「かさのたんい」では、入れものに1Lとしかさだけ水を入れ、実際にはかかったかさ予想したかさを比べる活動などが設定されている。 □ 学校間の円滑な接続に関して、第5、6学年巻末の「中学の数学ではこんなことを学ぶよ」が設けられ、算数と関連づけた数学の内容が掲載されている。 □ プログラミング教育の一環として、発達の段階に応じたプログラミング的思考を育むことができるように、全学年に「プログラミングにちょうせん！」が設定されている。 □ ページ端のタグにより問題解決の流れが示されている。また、単元末の「たしかめ問題」には、フィードバックマークが掲載され、自主学習ができるよう構成されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 第2学年以降では、毎時間ごとに「学習のめあて」が示されている。また「ふりかえろ」では、学習を振り返るために、感想を述べるための文頭例が掲載されている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 知識及び技能の定着を図るために、単元末の「算数たまてばこ」では、学習内容を日常生活に生かしたりする活動を通して、知識及び技能の定着を図るよう構成されている。 □ 第2学年以降の「じっくり深く学び合おう」では、よく考えて話し合いながら学習できる課題が設けられ、図や式などを用いた多様な考えや話し合いの例が掲載されている。 □ 統計的な内容の充実として、グラフや表などの資料を正しく読み取る力を育むために、他者の考えが正しいかどうかを考察するような問いが設定されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 補充や発展問題として、単元末に「たしかめ問題」が設けられている。また、巻末には、「プラス・ワン」が設定されている。 □ 判型は、B5判で、全学年とも合冊である。 □ 「見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。」と記載されている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《算数(算数)》

※詳細については、資料Ⅱ(算数-7～算数-12)を参照

発行者の略称	学 園	書 名	みんなと学ぶ 小学校 算数
1 教育基本法、 学校教育法 及び 学習指導要領 との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、単元末の「できるようになったこと」「まなびをいかそう」や巻末の「ほじゅう問題」で学習内容を振り返る問題が設けられている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、第2学年以降の巻頭の「3つの学びの力をそだてよう」では、3つの力の具体例が掲載されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、学習したことを生活や社会の中で生かしていく「生活にいかそう 深めよう」が設定されている。 		
2 かながわ教育 ビジョンとの 関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、第2学年以降の「3つの学び方で学習を進めよう」では、自分の考えと同じ点や、他の児童の考えの長所を考える場面が掲載されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、国際化の観点から、第4学年の「2けたでわるわり算」の学習では外国のわり算の仕方が掲載されている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、第5学年の「生活にいかす 深めよう」では、データ分析の学習として、二酸化炭素の排出量を考える題材が設定されている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、児童が課題に興味を持ち、考えていく中で生まれた疑問を「めあて」として、主体的に課題解決をしていくよう設定されている。 □ 他教科との関連として、第2学年では、生活科と関連した「そだてたいやさい」で表とグラフを学習する題材が設定されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、課題解決した後に、その場面に応じた言語活動が行われるように「説明したいな」「話し合いたいな」「伝えたいな」などが設定されている。 □ 伝統や文化に関して、第3学年では、長さを比べる学習として、祭りで利用する綱や古墳のなどの長さが取り上げられている。 □ 体験活動として、第5学年の「正多角形と円」では、折り紙を折り、切って広げることでどんな形ができあがるかを考え、疑問を発見する活動が設定されている。 □ 学校間の円滑な接続に関して、第6学年では別冊「中学へのかけ橋」が設けられ、中学数学の例題が取り上げられている。 □ プログラミング教育の一環として、発達の段階に応じたプログラミング的思考を育むことができるように、全学年に「プログラミングの○」が設定されている。 □ 第3学年以降では、児童がつまづきやすい「倍の計算」が特設単元として設定され、さらに整数、小数、分数の乗除の学習が終わってから学習ができるよう構成されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 各単元に、習熟を確認する適用問題として「確かめたいな」が設けられている。また、図や4マス関係表が設けられ、系統的に図の学習ができるよう構成されている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 知識及び技能の定着を図るために、単元の導入「?を発見」では、日常の中から算数の問題を見つけ、課題解決の中で知識・技能を身に付けていく活動が設定されている。 □ 各学年の「かつどう!!」「活動!!」「アクティブ!!」では、図・言葉・数・式・表・グラフなどを用いて、根拠を伝え合う活動が設定されている。 □ 統計的な内容の充実として、「整理単元」と「活用単元」に分け、グラフ等に整理するだけでなく、傾向を読み取り、改善点などを考えることができるよう構成されている。 		
4 分量・装丁 表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 補充や発展問題として、単元末に「できるようになったこと」が設けられている。また、巻末には、「ほじゅう問題」が設定されている。 □ 判型は、A B判で、第1～5学年は、上下巻の分冊である。第6学年は、別冊がある。 □ 「誰にでも見やすくわかりやすい教科書になるように、ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、色使いやレイアウトなどに配慮して編集しました。」と記載されている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《算数(算数)》

※詳細については、資料Ⅱ(算数-7～算数-12)を参照

発行者の略称	教出	書名	小学算数
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、典型的な誤答に対して「考えるヒント」が示されたり、学年を越えて既習事項が確認できる「学びのマップ」が設けられている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、他の児童のノートを参考にする「友だちのノートを見てみよう」や、学びを振り返る「なるほど!」が設定されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、第4学年以降では、学んだことを生かして探究的に取り組める「広がる算数」が設けられている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、「友だちのノートを見てみよう」では児童同士でノートを見合う活動が設けられ、他者の考えのよさを認め合う場面が設定されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、情報化の観点から、第6学年の「広がる算数」では、並べ方と組み合わせの発展で、安全なパスワードを考える題材が設定されている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、第3学年のたし算・ひき算の問題では、牛乳パック回収のリサイクル活動について取り上げられている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、「はてな」「なるほど」「だったら」の表示が示され、問いの連続による学習で構成されている。 □ 他教科との関連として、第3学年では、社会科と関連した「町たんけん」で時刻と時計を学習する題材が設定されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、第2学年以降では、「算数で使いたい考え方」が設けられ、自分の考えを説明する際に使う言葉「はじめに」「なぜなら」などが掲載されている。 □ 伝統や文化に関して、江戸時代の「塵劫記」が紹介され、第4学年では「油わけ算」、第6学年では「小町算」「俵杉算」の問題が取り上げられている。 □ 体験活動として、第2学年の「長さ」では、実際に手やゆびを用いて10cmの長さを作り、さらに10cmくらいのもを見つける活動が設定されている。 □ 学校間の円滑な接続に関して、第6学年では、「数学へのとびら」が設けられ、中学数学を体験できる問題が取り上げられている。 □ プログラミング教育の一環として、第5学年の「正多角形の作図」では、実際にプログラミングが体験できる「プログラミングにちょう戦しよう」が設けられている。 □ 第2学年以降の巻末「学びの手引き」では、コンパスや分度器、三角定規などによる作図の仕方について、作業の手順を示した連続した図や写真が掲載されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 典型的な誤答に対して、「考えるヒント」が設けられ、着眼点や誤答例を示すことで、仕組みや計算の仕方を理解できるよう構成されている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 知識及び技能の定着を図るために、「算数を使って考えよう」では、身の回りから算数の問題を見出し、課題解決の中で知識や技能を身に付けていく活動が設定されている。 □ グラフで「いちばん」を伝えるために、円グラフや帯グラフを用いて、一番であるものを考え、さらにその考えをもとに気付いたことを話し合う題材が設定されている。 □ 統計的な内容の充実として、第5学年の「学んだことを使おう」では、身近な題材からデータを集め、分析し、統計的に課題解決を図る活動が設定されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 補充や発展問題として、単元末に「まとめ」が設けられている。また、巻末には、「ステップアップ算数」が設定されている。 □ 判型は、B5判で、第2～4学年は、上下巻の分冊である。第1、5、6学年は合冊である。 □ 「見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを使用しています。」と記載されている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《算数(算数)》

※詳細については、資料Ⅱ(算数-7～算数-12)を参照

発行者の略称	啓林館	書名	わくわく 算数
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、第2学年以降の巻末には、単元ごとの基礎的事項を習熟度別に学習することができる「もっと練習」が設定されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、図や表、式などを中心に学習するページが設けられ、立式の根拠や操作の手順などを説明する活動が設定されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、各単元末の「学びのまとめ」では、学習したことを振り返り、学びを生活などに生かそうとする題材が設定されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、話し合いの場面では、自他の考えを比較し、異なる意見を尊重したり、類似点を見つけたりする活動が設定されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、国際化の観点から、第5、6学年の「みらいへのつばさ」では、日本の食料自給率や国際協力に関する題材が設定されている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、第6学年の「ひろがる算数」では、ピアニストなど様々な職業に就く人々にインタビューし、仕事と算数の関係について掲載されている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、単元導入の「じゅんび」では、日常生活と関連を図った課題が設けられ、課題解決を通して理解を深めていくよう構成されている。 □ 他教科との関連として、第3学年では、社会と関連した「都道府県の人口」で一万を超える数を学習する題材が設定されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、第2学年以降で「わかりやすく説明しよう 友だちの考えをよく聞こう」が設けられ、自分の考えを分かりやすく説明する仕方が掲載されている。 □ 伝統や文化に関して、第6学年では、平等院鳳凰堂など日本の歴史的建造物が図形の題材として取り上げられている。 □ 体験活動として、第4学年の「角とその大きさ」では、作成した扇を使って様々な角の大きさを作る活動が設けられている。 □ 学校間の円滑な接続に関して、第1学年では、「わくわくすたあと」が設定され、算数と関連する幼児期の体験活動が掲載されている。 □ プログラミング教育の一環として、第5学年の「算数ラボ」では、プログラミング的思考を育むような内容として、正多角形の作図のアルゴリズム体験が設定されている。 □ 「数と計算」の領域では、練習問題の第一問目に主問題に似た問題が取り上げられ、知識・技能が確実に身につくよう細かいステップが設定されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 第2学年以降では、単元の導入として「じゅんび」が設けられ、単元の学習に入る前に既習事項を確認することができるように構成されている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 知識及び技能の定着を図るために、第4学年の「垂直・平行のかき方」では、手順を細かく示した連続写真を参考にかきながら技能の定着が図られるよう設定されている。 □ 学びをいかそう「わくわく算数ひろば」では、身近な日常生活の題材を通して、図、数、式、表などを用いて、伝え合う活動が取り上げられている。 □ 統計的な内容の充実として、第3学年以降の巻末の「みらいへのつばさ」では、日常生活や社会問題の題材を取り上げ、統計的に課題解決を図る活動が設定されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 補充や発展問題として、単元末に「学びのまとめ」が設けられている。また、巻末には、「もっと練習」が設定されている。 □ 判型は、B5判で、第2～4学年は、上下巻の分冊である。第1、5、6年は合冊である。 □ 「見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。」と記載されている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《算数(算数)》

※詳細については、資料Ⅱ(算数-7～算数-12)を参照

発行者の略称	日文	書名	小学算数
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、単元末の「わかっているかな？」では、学習内容の確実な定着が図れるよう間違えやすい問題が設定されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、「算数ノートをつくろう」が設けられ、考えの過程や他者の考えなどを記述したノートが掲載されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、「ハロー！さんすう」「ハロー！算数」「Hello! Math」では、学んだことを生かそうとする題材が設定されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、各学年とも、「自分で みんなで」の中に「学び合おう」が設けられ、他者の多様な考えを認め合うような場面が設定されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、国際化の観点から、第6学年の「場合の数」では、5カ国の子どもたちが手をつなぐときの並び方を考える題材が設定されている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、第3学年の「たし算やひき算」では、牛乳パックや空き缶を回収するリサイクル活動が題材として取り上げられている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、児童が考え、話し合い、答えを導き出すまでの学習展開が示された「自分で みんなで」が設定されている。 □ 他教科との関連として、第6学年では、家庭科と関連した「一汁三菜の献立を考えよう」で比や場合の数を学習する題材が設定されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、各学年とも、式や図などを互いに関連づけて説明する力を身に付けさせるための「算数ノートをつくろう」が掲載されている。 □ 伝統や文化に関して、第3学年の「なるほど算数」では、「昔の九九」、第5学年では「和算」について掲載されている。 □ 体験活動として、第3学年の「ハロー！算数」では、1kmの道のりを歩くには何歩かかり、何分かかかるかを予想し、実際に1kmを歩いて調べてみる活動が設定されている。 □ 学校間の円滑な接続に関して、第1学年では、「さんすうのはじまり」が設けられ、積木遊びなど算数に関わる写真や挿絵が掲載されている。 □ プログラミング教育の一環として、第5学年の「正多角形」では、コンピュータで正多角形をかくプログラムを考える題材が取り上げられている。 □ 各学年とも、「たしかめポイント」では、問題を解く際のポイントを想起させる手引きが掲載され、さらに学習したページに戻って見直すことができるよう構成されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 第2学年以降の「わかっているかな？」では、つまづきやすい問題が設けられ、注意点やヒントが掲載され、繰り返し問題に取り組めるように構成されている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 知識及び技能の定着を図るために、第4学年の「角と角度」では、「かたむき分度器」を用いて身の回りのいろいろな角度を測る活動が設定されている。 □ 第2学年以降の「数と計算」の領域では、表を用いて掛け算のきまりごとについて説明したり、計算の仕方を図や言葉をもとに話し合う場面が設定されている。 □ 統計的な内容の充実として、第5学年の「活用」では、いもの生産量と消費量のデータを分析し、傾向について考える題材が設定されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 補充や発展問題として、単元末に「たしかめポイント」が設けられている。また、巻末には、「算数マイトライ」が設定されている。 □ 判型は、B5判で、第1～5学年は、上下巻の分冊である。第6学年は合冊である。 □ 「カラーユニバーサルデザインに配慮しています。」と記載されている。 		

【資料Ⅱ】

教科種目名 《算数（算数）》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
東書	単元末の「たしかめよう」では理解や技能の定着の度合いの確認や、巻末の「ほじゅうのもんだい」では習熟に応じた問題が設けられ、理解を継続的に確認できるように構成されている。
大日本	第2学年以降の巻末に前学年までの既習事項をまとめた「〇年までのまとめ」や補充問題「プラス・ワン」で、知識・技能を繰り返し振り返ることができるように設定されている。
学図	単元末の「できるようになったこと」「まなびをいかそう」や巻末の「ほじゅう問題」で学習内容を振り返る問題が設けられている。
教出	典型的な誤答に対して「考えるヒント」が示されたり、学年を越えて既習事項が確認できる「学びのマップ」が設けられている。
啓林館	第2学年以降の巻末には、単元ごとの基礎的事項を習熟度別に学習することができる「もっと練習」が設定されている。また、既習事項をまとめた「〇年生のまとめ」が掲載されている。
日文	単元前に既習事項を確認できる「次の学習のために」が設けられ、また単元末の「わかっているかな？」では、学習内容の確実な定着が図れるよう間違えやすい問題が設定されている。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
東書	「今日の深い学び」や「算数マイノートを学習に生かそう」が設定され、課題解決の過程や説明の仕方等が掲載されている。
大日本	巻末には習得した見方・考え方をメモする「ひらめきアイテム集」のシートが設けられ、その後の学習に活用できるよう構成されている。
学図	第2学年以降の巻頭の「3つの学びの力をそだてよう」では、3つの力の具体例が掲載されたり、「算数で見つきたい考え方」を働かせている場面では、キャラクターによる解説が設定されている。
教出	他の児童のノートの長所を参考にする「友だちのノートを見てみよう」や、毎時間で学んだことを振り返ることができる「なるほど！」が設定されている。
啓林館	思考の助けとなる図や表、式などを中心に学習するページが設けられ、立式の根拠や操作の手順などを説明する活動が設定されている。
日文	「算数ノートをつくらう」が設けられ、考えの過程や友達の考えなどを記述したノートが掲載されている。また、「つなげよう！学びとノート」が設けられ、学び方の4つのステップが掲載されている。
③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	
東書	学習の振り返りとして、学習の価値付けや、次の学びに向かうような発言をする児童のイラストが随所に掲載されている。また、学んだことを生かす課題として「いかしてみよう」が設けられている。
大日本	単元の導入では、学校行事や遊びなど、日常生活場面から児童自身が課題や疑問を見出す題材が掲載されている。
学図	学習したことを生活や社会の中で生かしていく「生活にいかそう 深めよう」や、条件を変えて発展的に考える「ふりかえろう つなげよう」が設定されている。
教出	各学年とも、授業開きの題材として「算数が好きになる はじめの一步」が設けられている。また、第4学年以降では、学んだことを生かして探究的に取り組める「広がる算数」が設けられている。
啓林館	各単元末の「学びのまとめ」では、学びを深める3ステップで構成され、学習したことを振り返り、学びを生活などに生かそうとする題材が設定されている。
日文	「つなげる算数」や「ハロー！さんすう」「ハロー！算数」「Hello! Math」では、学んだことを生かそうとする題材が設定されている。

2 かながわ教育ビジョンとの関連

① [思いやる力] 他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
(共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育など)	
東書	第2学年以降の巻頭「学びのとびら」や、「今日の深い学び」では、他者の考えのよいところを認めるような場面が掲載されている。
大日本	巻頭の「算数まなびナビ」などで友だちの考えの良いところを見つける学習方法が取り上げられ、多様性を認め合う場面が掲載されている。
学図	第2学年以降の「3つの学び方で学習を進めよう」では、自分の考えと同じ点や、他の児童の考えの長所を考える場面が掲載されている。
教出	「友だちのノートを見てみよう」では児童同士でノートを見合う活動が設けられ、「友だちのノートの書き方のいいところを見つけよう」と問いかけ、他者の考えのよさを認め合う場面が設定されている。
啓林館	話し合いの場面では、自他の考えを比較し、異なる意見を尊重したり、類似点を見つけたりする活動が設定されている。
日文	各学年とも、教室での学習場面を示した「自分で みんなで」の中に「学び合おう」が設けられ、他者の多様な考えを認め合うような場面が設定されている。

② [たくましく生きる力] 自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力など)	
東書	第5学年の「算数で読みどころ」では、日本を訪れる外国人の人数のデータが題材とされたり、第6学年の「算数卒業旅行」では、9か国の筆算の仕方が紹介されている。
大日本	第3学年では、外国のおつりの渡し方、第4学年では英語の数字の数え方などを掲載されたり、外国にルーツをもつキャラクターと一緒に学習する仲間として設定されている。
学図	第4学年の「大きい数」では、世界各国の人口が題材として設けられ、「2けたでわるわり算の学習」では外国のわり算の仕方が掲載されている。
教出	第6学年の「広がる算数」では、並べ方と組み合わせを発展させた内容として、安全なパスワードを考える題材が設定されている。
啓林館	第5、6学年の「みらいへのつばさ」では、日本の食料自給率や国際協力など、今日的な課題に関する題材が設定されている。
日文	第6学年の「場合の数」では、5カ国の挨拶とともに、5カ国の子どもが手をつなぐ時の並び方を考える題材が設定されている。
③ [社会とかかわる力] 社会とのかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献できる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動など)	
東書	第5学年の「帯グラフと円グラフ」や第6学年の「データの調べ方」では、学習のしあげとして、データを整理して、自分たちの生活を見直す例が掲載されている。
大日本	第3学年以降では、気象予報士や建築家、パティシエなど、算数を生かした仕事に就いた人々を紹介するコーナーが設けられている。
学図	第5学年の円グラフの読み取り方の学習では、小学生の将来なりたい職業が取り上げられている。また「生活にいかす 深めよう」では、データ分析の学習として、二酸化炭素の排出量を考える題材が設定されている。
教出	第3学年のたし算・ひき算の問題では、牛乳パック回収のリサイクル活動について取り上げられ、また第4学年の「算数を使って考えよう」では、エコ活動の3Rについて取り上げられている。
啓林館	第6学年の「ひろがる算数」では、ピアニストや古生物学者など様々な職業に就く人々にインタビューし、仕事と算数の関係について掲載されている。
日文	第3学年の「たし算やひき算」では、牛乳パックや空き缶を回収するリサイクル活動が題材として取り上げられている。また、第2学年では、空き缶拾いが問題の題材として設定されている。

3 内容と構成

○小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮

① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	
東書	第2学年以降の「学びのとびら」や「今日の深い学び」では、深い学びにつながる学習過程を示し、主体的に問題を捉え、対話を通して課題解決が図られるような活動例が設定されている。
大日本	問題解決学習の流れをイラストや写真等を用いて示した「算数まなびナビ」や「じっくり深く学び合おう！」が設けられている。
学図	児童が興味を持ち、その課題を考えていく中で生まれた疑問を「めあて」として、主体的に課題解決をしていくよう設定されている。
教出	第2学年以降の「算数をはじめよう」では、学習の進め方が掲載されている。また、「はてな」「なるほど」「だったら」の表示が示され、問いの連続による学習で構成されている。
啓林館	単元の導入場面の「じゅんぴ」では、日常生活と関連を図った課題が設けられ、児童自らが見通しや課題意識を持ち、課題解決をしながら理解を深めていくよう構成されている。
日文	各学年とも、児童が考え、話し合い、答えを導き出すまでの学習展開が示された「自分で みんなで」が設定されている。
② 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮	
(教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、小学校6年間や義務教育段階9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、子どもが学習を進めたり先生が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など)	
東書	第4学年では、英語科と関連した「大きい数の区切り」で英語での大きい数の表し方が掲載されている。また、理科と関連した「天気と気温」で折れ線グラフを学習する題材が設定されている。
大日本	「他教科リンクマーク」により他教科との関連がある学習を示し、棒グラフや折れ線グラフ等の指導時期を早め、理科や社会に対応できるよう構成されている。
学図	第4学年では、理科と関連した「月別気温」で折れ線グラフを早期に学習できるよう設定され、また第2学年では、生活科と関連した「そだてたいやさい」で表とグラフを学習する題材が設定されている。
教出	第3学年では、社会科と関連した「町たんけん」で時刻と時計を、また第4学年では、理科と関連した「気温調べ」で折れ線グラフを学習する題材が設定されている。
啓林館	第3学年では、社会と関連した「都道府県の人口」で一万を超える数を、第4学年では、理科と関連した「気温」で折れ線グラフを学習する題材が設定されている。
日文	第4学年では、理科と関連した「気温」で折れ線グラフと表を、第6学年では、家庭科と関連した「一汁三菜の献立を考えよう」で比や場合の数を学習する題材が設定されている。

○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮

③ 言語能力の確実な育成に資する工夫や配慮	
東書	第2学年以降の「今日の深い学び」では、キャラクターになったつもりで、数・図・式を用いて考え方を説明したり、共通点を話し合う場面が設定されている。
大日本	第2学年以降の「算数まなびナビ」では、話し合いながら学ぶ方法や対話的学習のための話し方、聞き方が掲載されている。特に「数と計算」の領域では具体物と図、式を関連させて考えを説明する場面が設けられている。
学図	課題解決した後、その場面に応じた言語活動が行われるように「説明したいな」「話し合いしたいな」「表したいな」「伝えたいな」などの場面が設定されている。
教出	第2学年以降の巻頭では、「算数で使いたい考え方」が設けられ、自分の考えを説明する際に使う言葉「はじめに」「もしも」「なぜなら」などが掲載されている。
啓林館	第2学年以降の巻末では、「算数しりょう集 わかりやすく説明しよう 友だちの考えをよく聞こう」が設けられ、自分の考えを筋道を立てて分かりやすく説明する仕方や他者の考えを聞くポイントが掲載されている。
日文	各学年とも、言葉、数、式、図を互いに関連づけて説明する力が身につくように、ノート書き方を示した「算数ノートをつくらう」が掲載されている。また、第2学年以降では「よみとろう あらわそう」が設定されている。
④ 伝統や文化に関する教育の充実に資する工夫や配慮	
東書	第2学年では、体を使った長さの単位「あた・ひろ・つか」を用いて、昔のものの長さの調べ方が掲載されている。また、第6学年では、「算数卒業旅行」で江戸時代の算術や算額が取り上げられている。
大日本	第6学年では、江戸時代の和算の歴史や和算家、算額が紹介されている。また、メートル法以外の単位として尺貫法の「尺」「間」「坪」が取り上げられている。
学図	第4学年では、位置の表し方の学習として将棋が設けられている。また第3学年では、長さを比べる学習として、祭りで利用されている綱や古墳などが取り上げられている。
教出	第4、6学年では、江戸時代の算術書「塵劫記」が掲載され、第4学年では「油わけ算」、第6学年では「小町算」「俵杉算」の問題が取り上げられている。
啓林館	第2学年では、昔の長さの単位として「ひろ・あた・つか」が掲載されている。また、第5、6学年では、日本の歴史的建造物が計算や図形の題材として取り上げられている。
日文	第3学年の「なるほど算数」では、「昔の九九」、第5学年では「和算」について掲載されている。また、第6学年での「活用」では、和食の献立を考える題材が取り上げられている。
⑤ 体験活動の充実に資する工夫や配慮	
東書	第1学年の「かたちあそび」では、複数の具体物を用い、様々なかたちを作る体験活動を通して、算数を見だし、気付いたことを考えさせる場面が設定されている。
大日本	第2学年の「かさのたんい」では、いろいろな入れものに、1Lと思うかさだけ水を入れ、実際にはかったかさと予想したかさを比べるなどの体験活動が設定されている。
学図	第5学年の「正多角形と円」では、折り紙を折り、切って広げることでどんな形ができあがるかを考え、疑問を発見する体験活動が設定されている。
教出	第2学年の「長さ」では、実際に手やゆびを用いて10cmの長さを作り、さらに10cmくらいのもを見つける体験活動が設定されている。また、第6学年の切り紙遊びを通して、図形の対称性を学ぶ体験活動が設けられている。
啓林館	第4学年の「角とその大きさ」では、作成した扇を使って様々な角の大きさを作る体験活動が設けられている。また、第5学年の「合同な図形」では、巻末の付録を用いて合同な図形を探す体験活動が設定されている。
日文	第3学年の「ハロー！算数」では、1kmの道のりを歩くには何歩かかり、何分かかかるかを予想し、実際に1kmを歩いて調べてみる体験活動が設定されている。
⑥ 学校段階間の円滑な接続に資する工夫や配慮	
東書	第1学年では、小学校での学習に慣れるためのサポートとなる別冊が設けられ、遊びの中で得た経験による学習が設定されている。また、第6学年では「中学校体験入学コース」が設けられ、数学が学べるよう設定されている。
大日本	第1学年では、巻頭に3つの「さんすうのまなびかた」が示され、第5、6学年巻末の「中学の数学ではこんなことを学ぼう」では、算数と関連づけた数学の内容が掲載されている。
学図	第1学年では、生活経験の中で自然と触れ合う場面が大きな絵で掲載されている。また第6学年では、別冊「中学へのかけ橋」では、中学数学の例題が取り上げられている。
教出	第1学年では、数を数えたり、形を見つけたりする絵が掲載されている。また第6学年では、中学校の数学を体験してみる「数学へのとびら」が設けられている。
啓林館	第1学年では、「わくわくすたあと」が設定され、算数の学習につながっている幼児期の体験活動が掲載されている。また、第6学年の巻末では、中学で学ぶ数学の簡単な紹介が掲載されている。
日文	第1学年では、「さんすうのはじまり」が設けられ、積木遊びなど算数に関わる様々な生活場面の写真や挿絵が掲載されている。第6学年では、「もうすぐ中学生」が設けられ、中学数学の内容が取り上げられている。
⑦ 情報活用能力の育成に資する工夫や配慮	
東書	第5学年では「倍数の求め方」「正多角形の作図」、第6学年では「数の並べかえ方」において、実際にプログラミングの体験ができる「プログラミングを体験しよう！」が設定されている。
大日本	発達の段階に応じたプログラミング的思考を育むことができるように、全学年に「プログラミングにちょうせん！」が設定されている。
学図	発達の段階に応じたプログラミング的思考を育むことができるように、全学年に「プログラミングの○」が設定されている。
教出	第5学年の「正多角形の作図」では、実際にプログラミングが体験できる「プログラミングにちょうせんしよう」が設けられている。
啓林館	第5学年の「算数ラボ」では、プログラミング的思考を育むような内容として、正多角形の作図のアルゴリズム体験が設定されている。
日文	第5学年「正多角形」で、コンパスを使って作図する学習に続けて、コンピュータで正多角形をかくプログラムを考える題材が取り上げられている。

⑧ 児童の学習上の困難さに応じた工夫や配慮	
東書	第2学年以降の「たしかめよう」では、問題に対して解決の仕方が想起できる手引きが掲載され、学習したページに戻って学習を見直すことができるよう構成されている。
大日本	ページ端のタグにより問題解決の流れが示されている。また、単元末の「たしかめ問題」には、フィードバックマークが掲載され、自主学習ができるよう構成されている。
学図	第3学年以降では、児童がつまづきやすい「倍の計算」が特設単元として設定され、さらに整数、小数、分数の乗除の学習が終わってから学習ができるよう構成されている。
教出	第2学年以降の巻末「学びの手引き」では、コンパスや分度器、三角定規などによる作図の仕方について、作業の手順を示した連続した図や写真が掲載されている。
啓林館	「数と計算」の領域では、練習問題の第一問目に主問題に似た問題が取り上げられ、知識・技能が確実に身につくよう細かいステップが設定されている。
日文	各学年とも、「たしかめポイント」では、問題を解く際のポイントを想起させる手引きが掲載され、さらに学習したページに戻って見直すことができるよう構成されている。

⑨ ○児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮	
東書	「おぼえているかな？」が設けられ、既習内容を復習するための問題や次の単元に関連した既習事項を確認することができる問題が設定されている。
大日本	第2学年以降では、学習することが明確になるように毎時間ごとに「学習のめあて」が示されている。また「ふりかえろう」では、学習を振り返るために、学習の感想を述べるための文頭例が掲載されている。
学図	各単元に、習熟の度合いを確認する適用問題として「確かめたいな」が設けられている。また、問題文から式を立てる際に、図や4マス関係表が設けられ、系統的に図の学習ができるよう構成されている。
教出	典型的な誤答に対して、「考えるヒント」が設けられ、着眼点や誤答例を示すことで、仕組みや計算の仕方を理解できるように構成されている。
啓林館	第2学年以降では、単元の導入として「じゅんぴ」が設けられ、単元の学習に入る前に既習事項を確認することができるように構成されている。
日文	第2学年以降の「わかっているかな？」では、つまづきやすい問題が設けられ、注意点やヒントが掲載され、繰り返し問題に取り組めるように構成されている。

⑩ 数学的活動を通して、基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるための工夫や配慮がなされているか	
東書	第2学年以降の「今日の深い学び」では、数学的活動を通して学習ができる「学習を深めよう」「まとめよう」「使ってみよう」が設けられ、知識及び技能の定着を図る問いが設定されている。
大日本	単元末の「算数たまてばこ」では、日常生活から算数を見つけたり、学習内容を日常生活に生かしたりする活動を通して、知識及び技能の定着を図るよう構成されている。
学図	単元の導入「？を発見」では、日常生活の中から算数の問題を見つけ、課題解決の中で必要となる知識・技能を身に付けていく活動が設定されている。
教出	「算数を使って考えよう」では、身近な題材から算数の問題を見だし、既習事項を生かした課題解決を通して、知識及び技能の定着を図られるよう設定されている。
啓林館	第2学年の「直線のかき方」や第4学年の「垂直・平行のかき方」では、手順を細かく示した連続写真を参考にかきながら技能の定着を図られるよう設定されている。
日文	第4学年の「角の大きさをはかるう」では、「かたむき分度器」を用いて身の回りのいろいろな角度を測る活動を通して知識及び技能の定着を図られるよう設定されている。

⑪ 具体物、図、言葉、数、式、表、グラフなどを用いて考え、表現し、さらに伝え合うような題材として工夫や配慮がなされているか	
東書	第3学年以降では、数直線、表などで多様な考えを表現し、その考えをもとに対話を通じた課題解決が図られるよう「考える力をのばそう」が設定されている。
大日本	第2学年以降の「じっくり深く学び合おう」では、よく考えて話し合いながら学習できる課題が設けられ、図や式などを用いた多様な考えや話し合いの例が掲載されている。
学図	各学年の「かつどう！！」「活動！！」「アクティブ！！」では、図・言葉・数・式・表・グラフなどを用いて、根拠を伝え合う活動が設定されている。
教出	グラフで「いちばん」を伝えるために、円グラフや帯グラフを用いて、一番であるものを考え、さらにその考えをもとに気付いたことを話し合う題材が設定されている。
啓林館	学びをいかそう「わくわく算数ひろば」では、身近な日常生活の題材を通して、図、数、式、表などを用いて、伝え合う活動が取り上げられている。
日文	第2学年以降の「数と計算」の領域では、表を用いて掛け算のきまりごとについて説明したり、計算の仕方を図や言葉をもとに話し合う場面が設定されている。

⑫	目的に応じてデータを収集、分類整理し、結果を適切に表現する題材や、統計データの特徴を読み取り判断する題材として工夫や配慮がなされているか	
東書	第4学年以降では、「算数で読み解こう」が設けられ、日常生活や社会の問題をデータから読み取り、特徴を理解し、解決を図るよう、第4学年以降に「算数で読み解こう」が設定されている。	
大日本	各学年とも、単元の導入時に統計的な問題として見いだす場面が設けられている。また、グラフや表などの資料を正しく読み取る力を育むために、他者の考えが正しいかどうかを考察するような問いが設定されている。	
学図	統計的な学習として、「整理単元」と「活用単元」に分け、表やグラフに整理することだけでなく、分析して傾向を読み取り、予測や改善点を考えることができるよう構成されている。	
教出	第5学年の「学んだことを使おう」や「算数を使って考えよう」では、身近な題材からデータを集め、分析し、表やグラフで伝えるなど、統計的に課題解決を図る活動が設定されている。	
啓林館	第3学年以降の巻末の「みらいへのつばさ」では、日常生活や社会問題の題材を取り上げ、統計的に課題解決を図る活動が設定されている。	
日文	第5学年の「活用」では、いもの生産量と消費量のデータ分析や、第6学年では、100m走のデータをもとにリレーについて考える題材が設定されている。	

4 分量・装丁・表記等

①	○各内容の分量とその配分は適切であるか。	
東書	補充や発展問題として、単元末に「たしかめよう」と「つないでいこう」が設けられている。また、巻末には、「ほじゅうのもんだい」と「おもしろもんだいにチャレンジ」が設定されている。	
大日本	補充や発展問題として、単元末に「たしかめ問題」が設けられている。また、巻末には、「プラス・ワン」が設定されている。	
学図	補充や発展問題として、単元末に「できるようになったこと」が設けられている。また、巻末には、「ほじゅう問題」が設定されている。	
教出	補充や発展問題として、単元末に「まとめ」が設けられている。また、巻末には、「ステップアップ算数」が設定されている。	
啓林館	補充や発展問題として、単元末に「学びのまとめ」が設けられている。また、巻末には、「もっと練習」が設定されている。	
日文	補充や発展問題として、単元末に「たしかめポイント」が設けられている。また、巻末には、「算数マイトライ」の中に「しっかりチェック」「ぐっとチャレンジ」「もっとジャンプ」が設定されている。	

②	○体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮	
東書	判型は、B5判（第1学年はA4判とB5判）で、第1学年は①、②の分冊、第2～5学年は、上下巻の分冊である。第6学年は、合冊である。	
大日本	判型は、B5判で、全学年とも合冊である。	
学図	判型は、A4判で、第1～5学年は、上下巻の分冊である。第6学年は、別冊がある。	
教出	判型は、B5判で、第2～4学年は、上下巻の分冊である。第1、5、6学年は合冊である。	
啓林館	判型は、B5判で、第2～4学年は、上下巻の分冊である。第1、5、6年は合冊である。	
日文	判型は、B5判で、第1～5学年は、上下巻の分冊である。第6学年は合冊である。	

③	○文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮	
東書	「カラーバリアフリーを含むユニバーサルデザインに配慮しています。」「視認性をいっそう高めた新開発のユニバーサルデザイン教科書体を使用しています。」と記載されている。	
大日本	「見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。」と記載されている。	
学図	「誰にでも見やすくわかりやすい教科書になるように、ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、色使いやレイアウトなどに配慮して編集しました。」と記載されている。	
教出	「色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。」「見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを使用しています。」と記載されている。	
啓林館	「見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。」「個人の特性にかかわらず、内容が伝わりやすい配色、デザインを用いました。」と記載されている。	
日文	「カラーユニバーサルデザインに配慮しています。」と記載されている。	

【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載	
東書	神奈川県に関連することとして、比例の単元において、東海道新幹線の新横浜駅からの乗車時間と進んだ道のりの関係を考える問題が設定されている。
大日本	神奈川県に関連することとして、反比例の単元において、水族館の水槽の水の量と時間の関係を考える問題の資料として、新江ノ島水族館の写真が掲載されている。
学図	神奈川県に関連することとして、概数の単元において、動物園に行く際にかかる費用の見積もりを考える問題の資料として、よこはま動物園ズーラシアの写真が掲載されている。
教出	神奈川県に関連することとして、拡大図と縮図の単元において、横浜市の地図をもとに面積を求める問題の資料として、横浜市の縮図が掲載されている。
啓林館	神奈川県に関連することとして、割合のグラフの単元において、データの読み取り問題の資料として、神奈川県が全国第5位であるキャベツの都道府県別収穫量の円グラフ等が掲載されている。
日文	神奈川県に関連することとして、単位あたりの大きさの単元において、人口密度を求める問題の資料として、神奈川県の人口と面積の値が掲載されている。

② URL、二次元コード等の掲載の有無													
	総冊数	1年上	1年下	2年上	2年下	3年上	3年下	4年上	4年下	5年上	5年下	6年上	6年下
東書	11	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有
大日本	6	有		有		有		有		有		有	
学図	12	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有
教出	9	有		有	無	有	無	有	無	有		有	
啓林館	9	有		有	有	有	有	有	有	有		有	
日文	11	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	

③ 一冊ごとの重量 (g)													
	総冊数	1年		2年		3年		4年		5年		6年	
		1年上	1年下	2年上	2年下	3年上	3年下	4年上	4年下	5年上	5年下	6年上	6年下
東書	11	148	236	245	225	282	251	277	288	273	264	469	
大日本	6	301		404		432		467		471		437	
学図	12	236	202	303	294	295	330	341	331	341	370	482	114
教出	9	307		256	249	261	242	297	278	499		445	
啓林館	9	293		259	267	272	246	292	240	488		479	
日文	11	186	170	273	231	285	237	290	275	272	288	471	

※東書（東京書籍）の「1年①」を「1年上」、「1年②」を「1年下」として表記しています。
 ※学図（学校図書）の「6年」を「6年上」、「6年別冊」を「6年下」として表記しています。